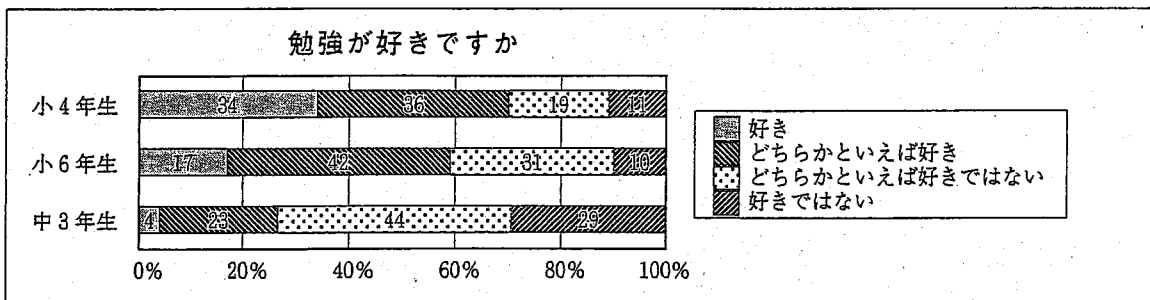
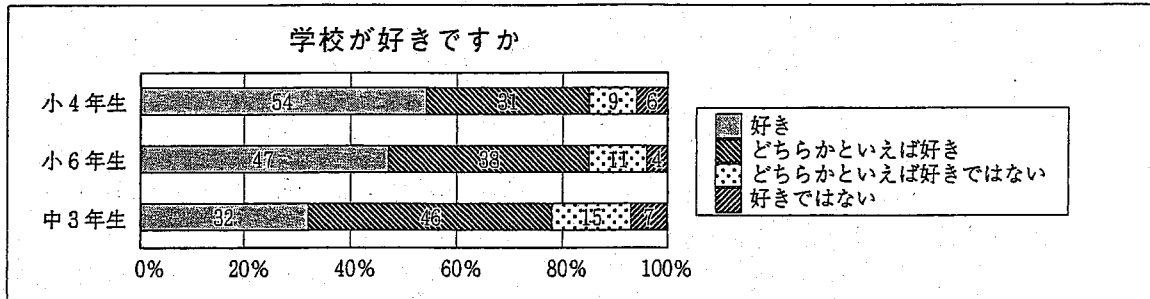


3 意識調査の結果概要

意識調査においては、(1) 学校生活や家庭生活などの実態や生活態度等に関する意識の傾向、(2) 教科に関する意識の傾向、(3) 意識調査と教科の通過率との関係の3つの視点から分析・考察を行った。ここでは、特に顕著な関係等が見られる項目について抜粋し、考察している。

(1) 学校生活や家庭生活などの実態や生活態度等に関する意識の傾向

勉強が好きな児童は、学校が好きであるという傾向がある。

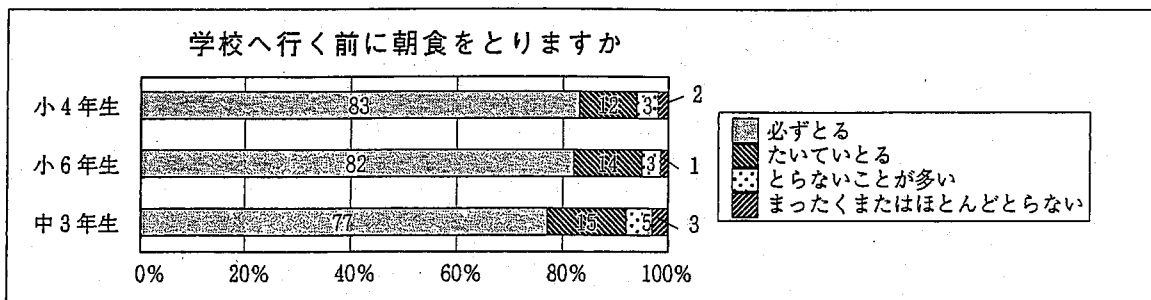


【考察】

小・中学校とも約8割の児童生徒が学校を好きと答えているが、勉強が好きと答えている児童生徒は学年が進むにつれて少なくなっている。

勉強が好きな児童は、学校が好きであるという傾向がみられることから、わかる授業づくりに努めるなどの授業改善が、学校を好きな児童生徒を増やすことにつながると思われる。

学校へ行く前に「朝食を必ずとる・たいていとる」児童生徒の割合は、小4で95%、小6で96%、中3で92%である。



【考察】

本県においては、ほとんどの児童生徒が朝食をとって登校していると答えており、好ましい傾向にある。朝食をとって登校することは、一日の生活のリズムをつくる上でも大切にした基本的な生活習慣である。しかし、全くまたはほとんどとらない児童生徒も若干名みられることから、児童生徒や保護者に毎日朝食をとるなど、基本的な生活習慣を身に付けることの大切さについて理解してもらう必要がある。